



クマの兄弟(知床)



オオワシとオジロワシ



2018年春の手入れ (網走タイムズ提供)



側溝の手入れ



雪上のキタキツネ



保全地内
小鳥の巣



流れの
ミズバショウ



2018.04
会員とNGKの若者(記念碑前)



保全地内
木の根



タヌキ寝入(擬死)

網走湖・水と緑の会 2018年6月
呼人水芭蕉通信14号
 網走市呼人181-1森の家内 電話0152-48-2223
 編集文責 清水敦、写真 佐藤正博

エゾエンゴサクと
ミズバショウ



スプリングフェアテール
春の妖精



網走タイムズ提供

国道39号線保全地に面して
ヨドガワ
ツツジ

群生地の状況
 全体に国道側(記念碑周辺)は乾燥が進み草地化(オニシモツク、バイケイソウなど)していますが、水を引いたり自然に出来た溝にはカエルが発生し、新しい水芭蕉の赤ん坊がみられます。保全地内の水の流れがコントロールできればよいのですが太い走り根があつて簡単ではありませんが、もともとなる側溝の水量の変化を見守る必要があるでしょう。

ホタル、サケ
 ホタルは時期には10匹前後観察できました。サケの遡上は見られませんでした。台風の水増がなかったせいかもしれません。

クマ
 呼人の保全地周辺にクマの目撃情報があり、呼人に「熊出没注意」の看板が立ちました。

エゾタヌキ
 最近エゾタヌキが増えているようで、ハコワナにかかったタヌキがGPSを付けて放たれました。生息状況を調べています(東京農大)。

感謝
 毎年、保全地の春、夏の手入れには、NGKオホーツクの若い社員の皆様のお手伝いを頂いています。会員の老齢化が進み助かっています。風倒木の処理では、造園会社の(株)タナカ様にお世話になりました。ありがとうございました。